

FIA8859-2015規格について

FIA8859-2015規格はFIAがSNELL SA2015規格を基本として、大きなサイズのヘルメットの試験方法に変更を加えた規格です。小さいサイズから標準サイズに関してはSNELL SA2015と同じ内容で、それより大きなサイズのヘルメットはSNELL SA2015より高い衝撃吸収性能が要求されます。ARAI製品は両方の規格に適合するよう仕様の見直しを行い、今回の8859シリーズの四輪モデルとなっております。

FIAバイザーラベルについて

メーカー純正品のバイザー（シールド）であり、SNELL SA2015の耐貫通性試験に合格し、悪天候下でコース上の信号、オフィシャルのフラッグの色がより正しく認識できるという要求事項を満たすバイザーに貼られるのが「FIAバイザーラベル」です。2016年1月1日以降に製造され、FIA8858-2010、FIA8859-2015、FIA8860-2010適合のヘルメットに標準装備されるバイザーにはこのラベルが貼付されていることが義務化されます。逆に、純正品でない社外品で製造、販売される品質保証の無いバイザーは、レースでの使用が出来なくなります。尚、2015年12月31日以前製造、販売されたバイザーに関してはこの適用はされませんので、2016年1月1日以降使用したとしても特に問題とはなりません。

株式会社アライヘルメット  
〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12  
TEL 048-641-3825

安全のために守って頂きたい事項

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守るため努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえどもいかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますようお願いいたします。

正しいサイズのヘルメットを選びましょう

安全のためには、頭に良く合ったサイズのヘルメットを被るということが大切です。サイズの合わないヘルメットでは頭が痛くなったり、十分な安全性能を発揮することができません。ヘルメットを選ぶ時は、ご希望のヘルメットを実際に被ってみて、頭を軽く振っても上下左右にずれない大きさと、内装のフィット感が均一なヘルメットをお選びください。

あご紐は必ず締めてください

衝突した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から来るかも知れません。そんな時に、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐です。ヘルメットを被る時にはあご紐を必ず正しく締めてください。

正しいシールドを選択してください

周りが暗くなってきたのにスモークシールドのままでは走行すると視界が悪化し、状況判断し難くなり大変危険です。夜間も走行する可能性がある場合は、光線透過率が70%以上のシールド(アライ純正のクリアーシールド又はライトスモークシールド)に交換してください。また、取り外したシールドはキズを付けないようにして保管してください。

走行中の環境の変化に注意してください

走行時におけるヘルメット内の温度はほぼ一定なのですが、運転者は高速度で移動しているため周辺の環境(気温・湿度)は常に変化しています。そのため、突然の雨やトンネルに入ったり、出た瞬間、峠道等高低差がある道路を走行していると、ヘルメット内の温度と周辺の気温とに差が生じるため、シールド面に結露(露付き現象)が発生し急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時には、ご注意をされますようお願いいたします。

衝撃を受けたヘルメットは再使用できません

ヘルメットは、大きな衝撃を受けると、その一部が壊れることによって衝撃を吸収し、頭を守るように作られています。したがって大きな衝撃を受けたヘルメットは、例え外観に大きなキズが見られなくても性能が低下しています。衝撃を受けたヘルメットはそのままご使用にならず、弊社『品質管理課』まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。

走行中のヘルメットの操作は危険です

走行中にヘルメットの操作(シャッターの開閉等)を行なうには、ハンドルから手を一時的に離さなければならず、その結果、運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの各操作は、停車状態の時に行ってください。ただし、シールドの開閉操作は視界の確保等に必要なので、この限りではありません。



保存版

*Racing Specialities*

GP-6

8859

M6 TERMINAL

GP-6S

8859


M6 TERMINAL

取扱説明書

ヘルメットをご使用になる前に必ずお読みください

本書は、ヘルメットの使用方法、お手入れの方法、使用上の注意を説明しています。ヘルメットを正しくご使用して頂くために本書を最後までよくお読みください。また、本書は、いつでも読み返せるように大切に保管してください。万一紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。

◆本書の各国記号は以下のような意味を表しています◆



注意 危険

本書の、左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本書の、左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

ご自分でペイントする時の注意事項

ヘルメットをご自分でペイントする際には、以下の事によく注意して行ってください。まず、ヘルメットの外側を中性洗剤で水洗いし、汚れや油分を落とし、800番程度の紙やすりで軽くこすって表面処理をしてください。ヘルメット内の発泡スチロールは、塗料に含まれるシンナーに侵されると衝撃吸収性が失われてしまいます。新聞紙とテープで塗料が入り込まないように入念にマスキングし、ヘリ部分、ホック類、ネジ孔等にも同様にマスキングしてください。後はご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装してください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。また、樹脂成型品(ホルダー等)は塗装に適していませんので塗装はおやめください。

ヘルメットは改造しないでください

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、これによって頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界、聴力、運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットを被ると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは、高周波のカン高い音がクッション材等によって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話等の周波数音はほとんど吸収されません。この事をご理解頂ければ、支障なく運転ができます。また、聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり、聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず、帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。

ヘルメットの性能は、不変ではありません

ヘルメットは、日々着用する事によって、帽体や衝撃吸収ライナー等の経時変化による劣化が進み、衝撃吸収性能が徐々に低下して行きます。SGマーク(製品安全協会の被害者救済制度)の有効期限(ヘルメット着用開始から、3年)を目安に、ご使用中のヘルメットに、これと言った異常が見られなくても、着用開始から3年経過したヘルメットは、お買い替えをお勧めします。

不安定な場所に置かないでください

ヘルメットを、不安定な場所に置かないでください。ヘルメットが落下して破損するおそれがあります。ヘルメットは、中身が空の状態では1m以下からの落下であれば性能には大きく影響しませんが※、落下の際にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、すみやかに新しい部品と交換してください。  
※但し、1m以下でもヘルメットの同じ所を何回も落とした場合は性能が低下します。

ヘルメットを突起物に被せないでください

バックミラー等の突起物にヘルメットを被せると、突起物の角でシールド内面が傷付いたり、衝撃吸収ライナーを変形させるおそれがあります。そして、変形した衝撃吸収ライナーは、衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメットのエッジモールを傷付け、それをきっかけに帽体の縁部分が露出するおそれがあります。帽体の縁は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと、転倒時に首や肩を傷付けるおそれがあります。

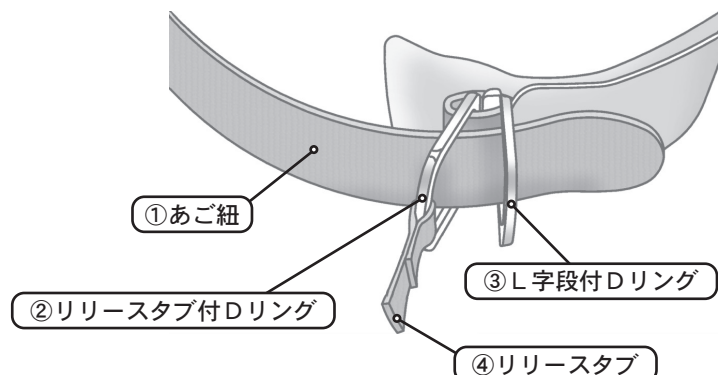
ペットのいたずらにご注意！

ペットを飼っている方は、ペットの近くにヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして噛んだり転がしたり、内装布を巣作り(寝床)の材料にするために齧り取ったりして、ヘルメットを破損させるおそれがあります。ヘルメットはペットが届かない場所に置いてください。

## 1 あご紐の取り扱い方法

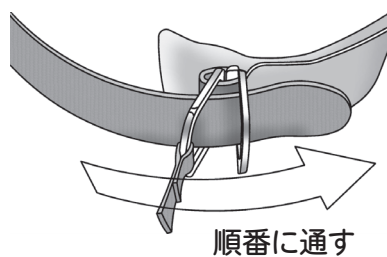
ヘルメットを使用する際、あご紐を正しく締めていなければ、万一の際に安全装備としての機能を十分に発揮することができません。下記のおご紐の締め方を良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますようお願いいたします。

### あご紐各部の名称

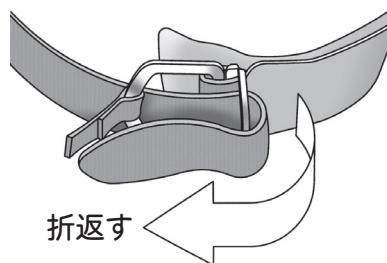


### あご紐の正しい締め方

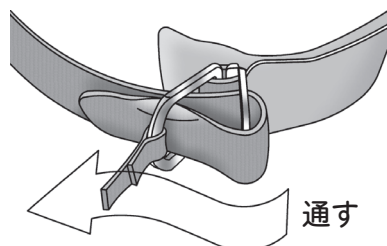
1. あご紐を二つのDリングに通す  
最初に『①あご紐』を、ねじれさせないように注意して、『②リリースタブ付Dリング』→『③L字段付Dリング』の順に通します。



2. 二つ目のDリングで折り返す  
二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐を右図のように折り返します。

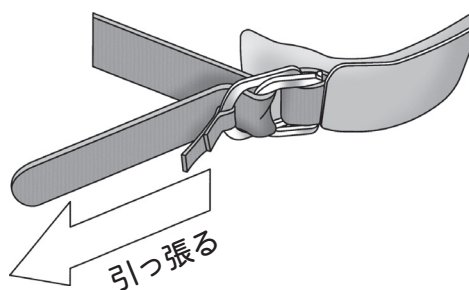


3. あご紐を一つ目のDリングに通す  
あご紐の先端を『②リリースタブ付Dリング』の内に、再度通します。この時にも、あご紐をねじれさせないよう、ご注意ください。



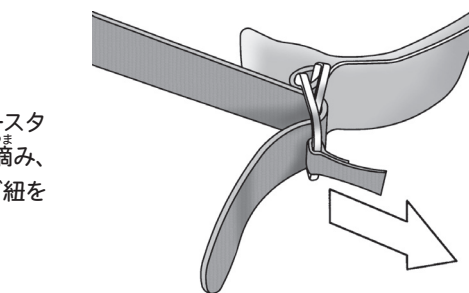
4. あご紐を引っ張り、締め具合を調節

あご紐を矢印の方向に引っ張ると、あご紐の装着が完了します。あご紐の引っ張り加減で、あご紐の締め具合が自由に調節できますが、あご紐の『きつ過ぎ』、『緩過ぎ』にはご注意ください。



5. あご紐の緩め方

あご紐を緩める際に便利な、『④リリースタブ』が採用されています。リリースタブを摘み、矢印の方向にグイッと引っ張ると、あご紐を楽に緩めることができます。



ヘルメットのおご紐を正しく締めていない場合、衝突時にあご紐が緩んでヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。



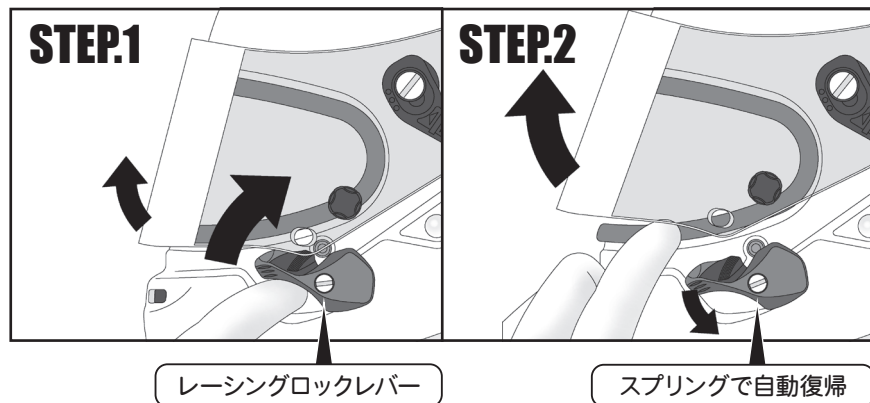
ドライビングスーツ襟元のマジックテープにあご紐が接触すると、毛羽立ちが生じてあご紐を痛める原因になります。

## 2 シールドの開閉

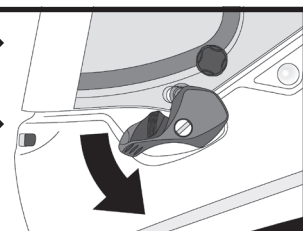
シールドの開き方

シールドを開く際には、ヘルメット左側の窪みに指を入れ、【ステップ1】のようにレーシングロックレバーを押し上げます。すると、シールドのロック解除と同時にシールドが一段開きます。ここでレーシングロックレバーより指を離し、【ステップ2】のようにシールドの下端に直接指をかけ、シールドを開きます。

※指を離すと、レーシングロックレバーは元の位置に戻ります。

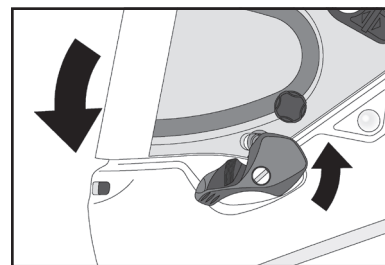


レーシングロックレバーを下向きに回さないでください。レーシングロックレバーの機能を損なうおそれがあります。



シールドの閉じ方

シールドを閉じる際は、シールドを止まる位置まで引き下げます。シールドが完全に下がると、レーシングロックレバーが自動的にロックポジションに移行します。



## 3 シールドの着脱

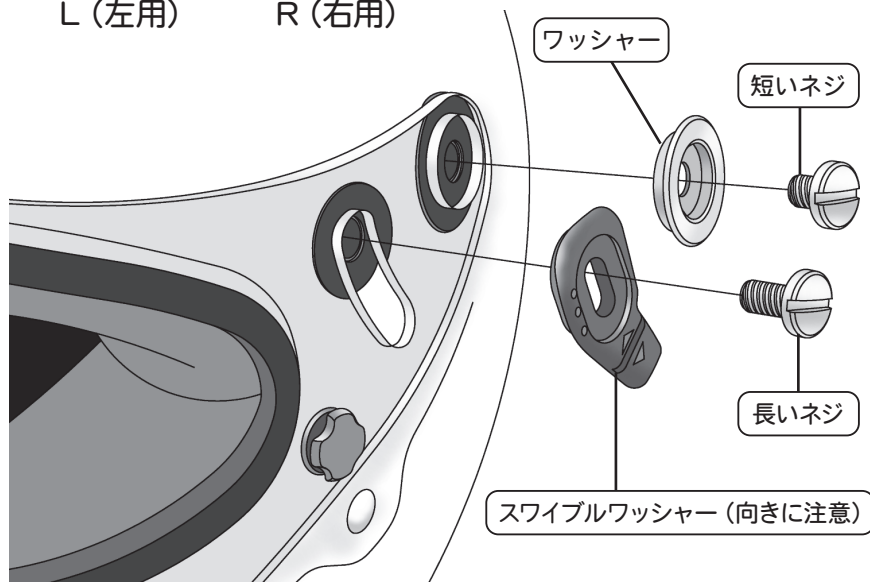
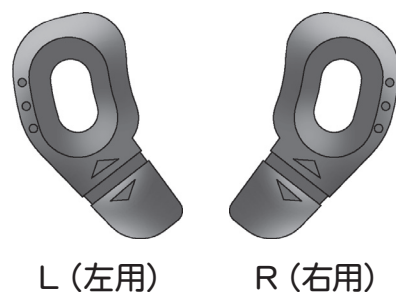
シールドの取り外し

シールドは、4ヶ所のネジでヘルメットに装着されています。硬貨で各ネジを緩めて、取り外してください。

シールドの取り付け

シールド後方の穴にワッシャーをはめ込み、短いネジを締めこみます。シールド前方の溝にはスワイブルワッシャーをはめ込み、長いネジを締めこみます。

※スワイブルワッシャーには左右（L / R）があります。



ネジ穴やネジ山の破損原因となりますので、大型のマイナスドライバーなどの工具で強いトルクを加えないよう、ご注意ください。

## 4 スワイブルについて

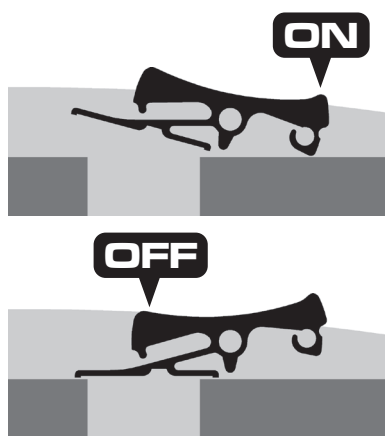
スワイブルストッパーの開度設定方法は、まず左右のスワイブルネジ（前方のネジ）を少し緩めて、シールドを全開位置まで上げます。次に、スワイブルネジを締めてシールドを下げると、確保できる隙間の「最大位置」でシールドが止まります。このシールドの隙間をもっと小さくしたい場合は、左右のスワイブルネジを再度緩め、好みの開度になるまで、シールドを徐々に下げます。好みの開度に達した時点で、スワイブルネジをしっかりと締め付けてください。

スワイブル開度・最大

スワイブル開度・最小

## 5 ベンチレーションダクトの操作

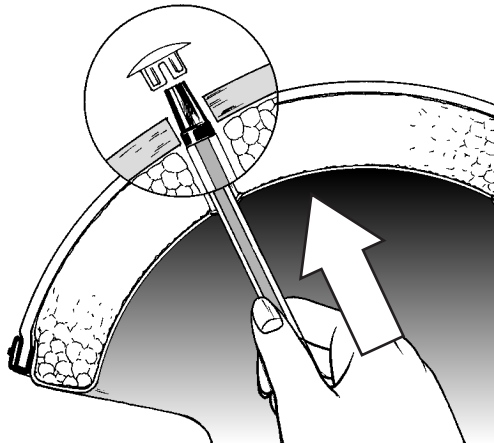
■シャッターの開閉は、各ダクト上にある【スイッチ】で行います。スイッチの後方を押すとシャッターが開き、前方を押すとシャッターが閉じます。



### ドレンキャップの外し方

ドレンキャップによってドレンホールが塞がれている場合は、以下の方法でドレンキャップを取り除いてください。

衝撃吸収ライナーの天井部にはドレンキャップへと通じる穴があります。その穴にボールペンの柄などを差し込み、ドレンキャップの底を押してください。外したドレンキャップは無くさないようご注意ください。



## 6 M6ターミナルについて

M6ターミナルとは、FIA規格（FIA 8858-2010）に定められたFHRアンカーを取り付けるための接続ターミナルです。

FHRアンカーをヘルメットに取り付ける際には、M6ターミナルステッカー（右写真）を剥がしてください。



FHRアンカー



当ヘルメットに、FHRアンカーは付属していません。

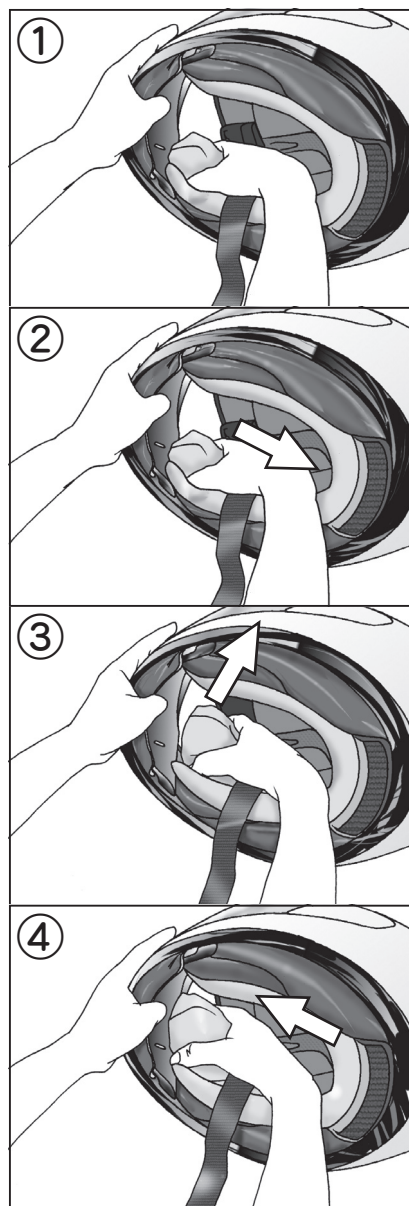


## 7 チークパッドの着脱（GP-6 8859のみ対応）

### チークパッドの取り外し

チークパッド前方を、図①のようにしっかりと掴み、図②のように後方に向かってスライドさせます。すると、チークパッド前方のロックが解除されるので、図③のようにチークパッド前方をグイッと持ち上げてください。チークパッド前方が外れたら、図④のように、チークパッドを斜め前方に引き抜いてください。

■反対側のチークパッドも、同じ手順で取り外してください。



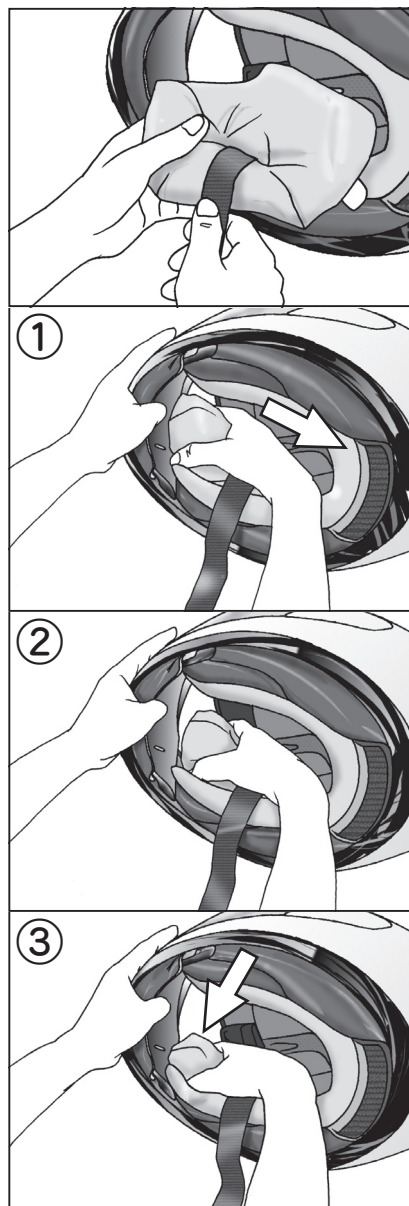
### チークパッドの取り付け

まず最初に、チークパッドの左右を確認し、あご紐をチークパッド中央の穴に、あらかじめ通しておいてください。

図①のようにチークパッド後方のツメから先に取り付けます。チークパッド後方が図②のようにヘルメットに収まったら、図③のようにチークパッド前方をパチッと音がするまで押さえ付けてください。

取り付けが完了したら、あご紐を引っ張り、弛みを取り除いてください。

■反対側のチークパッドも、同じ手順で取り付けてください。



## 8 ヘルメットのお手入れ方法

ヘルメットを構成している部品にはシールド、シャッター等の「樹脂成型品」、衝撃吸収ライナーの「発泡スチロール」、内装材の「発泡ウレタン」及び内装生地「化学合成繊維」等があります。これらの材料はシンナー系の溶剤、ガソリン等に触れると素材が侵され、本来の機能を損ない、ヘルメットの安全装備としての性能を維持できなくなります。このようなヘルメットのお手入れに不適な溶剤等の使用はおやめください。

**ヘルメットのお手入れに、これらの液体は使用厳禁！！**

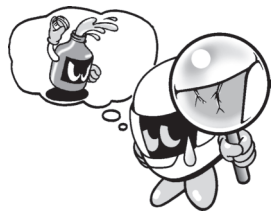
**シンナー系の各種溶剤、ガソリン、軽油、灯油、ベンジン、ナフサ燃料、アルコール、エーテル、アルコール成分を含むクリーナー類（ガラスクリーナー等）**

### シールドのお手入れ方法

シールドにオイルやワックス、ガソリン等が付着すると、目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいます。定期的にシールドのクリーニングをされますようお願いいたします。シールドのお手入れには中性洗剤を使用して手洗いし、水分のふき取りには柔らかい布を使用してください。

### 注意

シールドは、耐衝撃性に優れた素材で成形されています。しかし、クリーニングの際に、市販のクリーナーや、シンナー系の溶剤、ガソリン等を使用した場合や、カー用品の撥水剤等のケミカル類を使用した場合、素材が侵されシールドにクラック（ひび割れ）が発生し、万一の衝撃時に破損する恐れがありますので、これらの溶剤は絶対に使用しないでください。



### ヘルメットのお手入れ方法

ヘルメットの外側は、薄めた食器洗い用中性洗剤に浸した柔らかい布で、表面の汚れを拭き取ってください。

### 注意

樹脂成型パーツのクリーニングを行う際に、ガラスクリーナーやシンナー系の溶剤、ガソリン等をご使用になると、塗装面や素材が侵食され、破損する恐れがあるので使用しないでください。

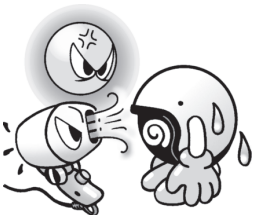


### 内装のお手入れ方法

当ヘルメットに使用されている「難燃性生地」は非常にデリケートな素材なので、ザブザブと水洗いができません。内装のお手入れには、中性洗剤を少量入れた水に柔らかい布を浸し、よく絞ってから汚れをふきとり、その後、乾いた柔らかい布で水気をふきとってください。また、乾燥は風通しの良い日陰で行ってください。

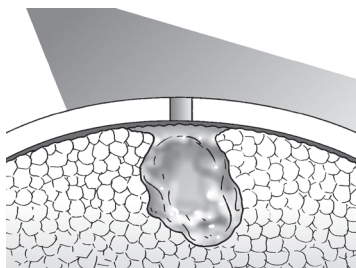
### 危険

ヘルメット乾燥の際に、ドライヤー等で50℃以上の熱を加えたり、ヘルメットを真夏の車両内部に長時間放置したり、直射日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。



## 9 ペイントに関するご注意

マスキング不良が原因で塗料がヘルメット内に浸入すると、塗料に含まれるシンナー成分によってライナー（発泡スチロール）がドロドロに溶け、衝撃吸収能力が失われてしまいます。ネジ穴、ベンチレーション用穴などはマスキングを忘れがちです。シンナーが入り込まないようにしっかりとマスキングしましょう。



パーツ名		注文番号
GP - 6シールド	クリアー	011280
	スモーク	011281
	ライトスモーク	011282
GP - 6 AFシールド	クリアー	011290
	スモーク	011291
	ライトスモーク	011292
GP - 6 ダブルレンズシールド	クリアー	011295
	ライトスモーク	011296
GP - 6 8859 ミラーシールド	スモーク/ゴールド	011346
	スモーク/シルバー	011348
	スモーク/ブルー	011349
	スモーク/グリーン	011350
GP - 6用ティアオフシールド (5枚入り)		011386
GP - 6ネジセット		112403
GP - 6チークパッド	12mm	051340
	15mm	051341
	20mm	051342
	25mm	051343
ICダクト3	クリアー	104920
	スモーク	104921
	白	104922
TDR3ダクト (左右)	クリアー	104950
	スモーク	104951
	白	104952
GP - 6ティアダクト (クリアー)		104456
ICダクト3	クリアー	104920
	白	104922
GP - 6Sリアダクト	クリアー	104889
	白	104890

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行なっておりません。お客様のお近くの専門洋品店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカatalogやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

ご使用になる塗料の種類により、塗装方法、乾燥に要する温度、時間が異なります。塗料缶やスプレー缶に表示された取扱説明を良くご覧になり、使用上の注意をお守りください。

ヘルメットに50℃以上の熱が加わると、衝撃吸収ライナーが二次発泡（熱により膨れて柔らかくなる事）を起こし、衝撃吸収能力が失われてしまいます。乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用にならないでください。

